

創立六十周年記念

# 都小音研

平成30年3月8日第60巻426号

発行所  
東京都小学校音楽教育研究会

事務所  
東京都渋谷区幡ヶ谷3-49-1  
渋谷区立中幡小学校

## 次世代につなぐ音楽教育

東京都小学校音楽教育研究会  
副会長 石橋 悟  
(江戸川区立清新第一小学校長)

今年度も音楽を通して多くの子供たちが輝く姿が見られたことでしょう。昨年こんなことがありました。江戸川区では様々な音楽団体が集って開かれる音楽祭があります。その音楽祭に小学校の代表として出演してもらった学校の校長先生が、「昨年度大変な学年だった子供たちの立派な姿を見、演奏を聴いて感無量です。」と言ってくれました。本校でも3日間の音楽会で子供たちや保護者と素敵な時間を共有することができました。音楽科は学校で一人しかいない教科です。教科を背負う重さは教員一人一人が感じていることです。校内に楽器の奏でる音や、歌声が響くことで学校全体に一体感が生まれます。そんな教科は音楽科しかありません。重圧もあるでしょう。しかし、それを超える達成感や充実感を味わえることに誇りと喜びをもってこれからも頑張りましょう。



私自身は、今年度総武ゾーン大会の大会実行委員長を仰せつかり、とても貴重な経験をさせていただきました。特に多くの事前研や研究協議に立ち会えたことで、授業実践を通して先生方が成長する姿を見られたことは、貴重な財産です。また、経験の少ない教員が中堅・ベテラン教師の導きにより分科会の一員として取り組む姿は、ゾーン大会ならではの良さではないかと思いました。形を変えながら続いてきたゾーン大会。今後も時代により少しずつ内容が変わっていくかもしれませんが、ゾーンという地域で取り組み、バトンをつないでいくシステムがある限り、東京都の小学校音楽教育は今後も発展していくことを確信しました。今回ゾーン大会を経験した若手教員たちが、2校め、3校めでゾーン大会に関わった時に、今回の経験を生かし、中心となって活躍してくれる姿を楽しみにしていきます。

さて、来年度より新学習指導要領の移行期間となります。音楽科の2年間の移行期間の措置として、「新学習指導要領の規定によることができる」としており、全部又は一部について新学習指導要領による教育課程を編成・実施できるとされています。今回の改訂の趣旨を生かすためには、現行の学習指導要領を振り返り、授業の中で十分実践できることが必須条件です。新学習指導要領に向けた勉強をする中で、常に現行の学習指導要領を意識することが、移行期間中の授業実践に生かされることでしょう。総武ゾーン大会は、現行指導要領のまとめとして実施しました。ぜひ、研究集録を参考にいただければと思います。

2020年度の完全実施に向けて円滑に移行できることを考えると、この2年間の意味がどれだけ重要であるかが分かります。来年度の都小音研大会、再来年度の東京での全国大会は各種研究会が主体となりますが、各地区の理事を通してその情報を伝えることで都全体の取組にしていかなければなりません。そして、2020年度の多摩南ゾーン大会へとバトンがつながるように、東京都の全小学校音楽教員が一つになることが求められます。都小音研会員のみなさん、次世代につなぐ音楽教育のために連携・協力していきましょう。

# 総武ゾーン大会

大会主題

つなげる 見つける 私たちの音楽

研究主題

つながる 深まる 音楽する喜び

## 研究授業

器楽

### 「曲の感じを生かして演奏しよう」

墨田区立小梅小学校 第3学年

授業者 櫻井 文子

器楽の活動が技能習得型の授業になりがちであることが課題でした。児童が主体的に学ぶために、扱う「共通事項」を明確にして曲想を捉える楽曲分析を行いました。

本題材は、A表現(2)器楽のイとウを指導内容としています。本時はイの創意工夫で評価する時間でした。3年生が分かりやすく楽しく「エーデルワイス」の曲想に合った演奏の仕方を工夫することができるように、音を視覚化する方法を選択し、ホワイトボードを使って音で確かめながら試行錯誤できるようにしました。

創意工夫と表現技能が往還する授業を目指しましたが、研究の視点による手だてを具体的な授業の形にしていけることが大変でした。特に、リコーダーによる器楽の学習における創意工夫について悩みました。御指導いただきました玉野麻衣先生をはじめ、大会に携わった全ての皆様に御礼申し上げます。



鑑賞

### 「スペイン風のリズムやせんりつを楽しもう」

江戸川区立南小岩小学校 第4学年

授業者 小原 梢

スペイン音楽に見られるリズムと音階を用いた旋律に着目し、鑑賞「カルメン第一組曲」より『アラゴネーズ』と器楽「スペインのカスタネット」の関連を図った学習を行いました。本時「アラゴネーズ」の学習では、一つ一つのねらいに即して音楽を聴き取ったり、友達と音楽に合わせて手合わせをして気付いたことを話し合ったりする活動を通して、スペイン風のリズムのよさや面白さなどについて考えを深めました。授業では、鑑賞の学習で重要な音源選択、教室環境の配慮はもちろん、ねらいに合わせて2つの音源を比較するといった方法も取り入れました。「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を関連させながら、児童の気付きや思いを大切に鑑賞指導について学ぶ貴重な機会となりました。まだまだ改善の余地はあると思いますが、今後先生方に試していただける実践の一つになれば嬉しく思います。



音楽づくり

### 「日本の音階に親しもう」

江東区第五大島小学校 第4学年

授業者 青柳 裕美子

都節音階・民謡音階それぞれの特徴を生かしてグループで旋律をつくり、音階らしさがより伝わるよう、反復の仕方を工夫しました。子供たちは、「音が低い旋律を反復して力強いお祭りの感じを出そう。」「この旋律を反復するとゆったりした感じになるよ。」など、音で試しながら活発に意見交流していました。演奏を聴き合う場面では、「この反復や演奏の仕方は〇〇音階らしさが出ているね。」と感想が出ました。発表した子供たちは、聴いている人に思いが伝わったとわかり嬉しそうでした。我が国に伝わる音楽から感じたことを表現につなげ、互いのよさを認め合っていました。そして、自分たちの音楽への価値を見つけることができたと思います。御指導いただきました中地雅之先生をはじめ、都小音研研究部、江東区音楽部の先生方に心より感謝申し上げます。



歌唱

### 「表現を工夫し、思いを歌声で伝えよう」

江東区立第四砂町小学校 第5学年

授業者 的場 香穂

卒業する6年生に感謝の気持ちを歌声で伝えたいと、表現の工夫に取り組みました。

音楽の特徴や歌詞の内容から、どのように歌うと思いが伝わるのかをグループで歌って試す活動をしました。リーダーを中心に活発に意見を出し合い、思いを表現するためにはどうしたらよいか、子供たちとそのための方法を考え「技集(わざしゅう)」として活用し、「こんな風に歌ったら自分たちの思いに近づいてきた。」と感じながら表現の方法を見つけ出す姿がありました。

「歌うことが大好き」「歌に思いを込めて伝えたい」と仲間と協力しながら表現の工夫を積み重ね、大きなホールで歌う子供たちの自信に満ちあふれた笑顔を見ることができ、とても幸せな時間でした。

御指導いただきました館雅之先生、江東区音楽部の先生方、都小音研研究部の先生方に心より感謝申し上げます。



## 🎵 ワークショップ 『葛西囃子』について 講演と演奏

講師：東京都無形民族文化財 江戸川区無形民族文化財 東都葛西囃子睦会  
東都葛西囃子睦会の皆様は、日本の歴史・伝統文化を含めた郷土の音楽を守り抜き、現在に継承していらっしゃいます。そんな皆様を今回のワークショップにお招きしたのは、『葛西囃子発祥の地域』である私たち総武ゾーンが自らお囃子の音楽に触れ、それらの特徴や魅力に気付き、理解していきたいと考えたからに他なりません。江戸川の地で300年前から育まれてきた祭囃子の由来等のお話を交えながら素晴らしい演奏を披露していただきました。 大木 美智代（江戸川・第三松江小）



## 🎵 研究演奏

### 「曲の感じを生かして演奏しよう」

墨田区立二葉小学校 第4学年  
指導者 三瓶 真知子

#### 器楽合奏

#### 「旅立ちのアンダンテ」「オーラ リー」「星間連絡船」

リコーダーを中心にした合奏3曲に取り組みました。まず、基礎基本を見直すことからスタートし、アルトリコーダーを導入することによって響きに厚みや深みを出すことができました。また、「オーラ リー」では、ソプラノリコーダーの響きを生かすために、グロックンと鉄琴の音色を加えたアレンジを選択しました。

助言者の橋本研先生をはじめ、墨田区内の先生方に様々な御指導、御助言をいただく中で音楽に向かう子供たちの表情や一つ一つの音に対する姿勢が変わっていききました。

当日のステージ上では、全員が自信に満ちあふれた姿で、堂々と演奏することができました。演奏後の子供たちは、誰もが「やり切った!」という満足感でいっぱいでした。



### 「ソーラン節の世界を感じ取って 表現しよう」

江戸川区立臨海小学校 第4学年  
指導者 柴田 あゆみ

#### 音楽づくり ～ソーラン節の音階を使って～

#### 器楽合奏 「ソーラン節（ロック風）」

ステージで子供たちが独自の世界をつくりだす一指導者として、この子供たちと共に舞台に立てたことを幸せに思います。

授業で子供たちは、共通事項を手掛かりに次から次へと自由に発想を広げ、自らがつくった音楽を変化させていきました。つくった音楽から新たな思いが生まれ、その思いから音楽が進化する—このスパイラルは、本番が近づくにつれ勢いを増し、大会直前まで続きました。その結果、子供の思いがいっぱいにつまった、楽譜のないオリジナル作品が出来上がりました。誰一人抜けてもらっては困るほどに、一人一人が重要な役割を担っている作品です。

子供たちの、真剣かつ豊かな表情で音楽表現に取り組む姿を生み出すことができたのは、この題材を通して得た何よりの宝物でした。御指導御支援をいただいた全ての皆様に感謝いたします。



### 「歌声にのせて 私たちの思いを伝えよう」

江戸川区立清新第一小学校 第5学年  
指導者 浦部 恵

#### 合唱

#### 「冬げしき」「Can do ～君が輝くとき～」「遠く」

歌が大好きな5年生。子供たちの心情を表わしやすい曲を選曲しました。1曲ずつ歌詞や旋律の動き・リズム・音の重なりなどから曲の特徴を感じ取り、情景を思い浮かべてどの場面が好きか、どう歌いたいのか、友達と考えを交流しました。工夫を発表し合うことでお互い聴き合い認め合いながら、自分たちの曲として歌声をつくっていきました。

助言者の野村先生からは、思いを伝えるための呼吸法や発声法を具体的に御指導いただきました。常に子供たちの思いを大事にしながら御指導いただき、子供たちは歌声にとどまらず、心も豊かに成長したように思います。当日歌っている子供たちの生き生きとした表情を見ながら、2年間の研究の成果を実感しました。御指導御支援いただいた先生方、本当にありがとうございました。



### 「思いをもって表そう それぞれの故郷 ～〔音楽のもと〕を手掛かりにして～」

江東区立第七砂町小学校 第6学年  
指導者 猪野 幸司

#### 器楽合奏

#### 「ふるさと（文部省唱歌）」「故郷の空」「故郷の春」 「故郷の人々」「ふるさと」

共通事項を手掛かりに個々の思いを音楽表現につなげる学習活動は、子供たちの学習への意欲を高め、グループアンサンブルに主体的に取り組めるようになりました。本大会の児童像の一つである「友達と学び合って考えを深め、豊かな表現を求める子」の実現に近づいたように感じています。また、この研究演奏のステージが、発表を意識した単なる練習の積み重ねによるものではなく、授業の延長線上にあるという視点を大切に、取り組めた事は大きな成果です。授業の後半では、助言者の熱田先生より、ステージマナーや緊張感を高めた中で演奏をする大切さなどを直接御指導していただき、本番では“獲物を狙う猫の目で指揮を見よう”という御助言を生かし、子供たちは真剣な表情で指揮を見て演奏を行うことができました。御指導いただいた熱田先生をはじめ、多くの方々へ御支援いただいたことを感謝しております。ありがとうございました。



# 第54回 児童作曲コンクール審査結果

## 課題詩の部1 「ふわり キラリ」

鼻和多恵子 詩

- 入選 鈴木志衿(練馬・開進第四小6年)  
佐藤都佳(足立・東伊興小5年)  
松宮駿太(練馬・開進第四小6年)  
佳作 田中大也(世田谷・尾山台小6年)  
月山 雪(板橋・高島第六小6年)

## 課題詩の部2 「とまらない とまらない」

北野千賀 詩

- 入選 佐藤都佳(足立・東伊興小5年)  
渡辺清子(港・芝浦小5年)  
佳作 井竿みやび・松島響(港・芝浦小6年)  
平唯花・須賀仁士(江東・平久小4年)  
酒井心花(足立・瀏江第一小6年)

## 自由作品の部ア (旋律のみの作品)

- 入選 佐藤優菜(江東・越中島小5年)  
佳作 市川聖菜・荻原由弓・竹下未悠・田中沢子  
(目黒・中目黒小4年)  
新野まどか・高階玲奈・片山ひなた  
(目黒・中目黒小5年)

## 自由作品の部イ (伴奏等がついたもの)

- 入選 【会長賞】北川みる  
(小金井・小金井第一小6年)  
笠井桃香(江東・平久小5年)  
小野凜太郎(目黒・中目黒小5年)  
吉野希咲(小金井・小金井第一小6年)  
佳作 小口すみれ(練馬・立野小3年)  
江藤幸希(三鷹・三鷹中央学園 第三小6年)

## 学校賞 (3年連続して作品応募のあった学校)

- 港・芝浦小 ○文京・汐見小 ○文京・林町小  
○江東・平久小 ○大田・六郷小 ○杉並・東田小  
○練馬・開進第四小 ○足立・東伊興小  
○調布・若葉小 ○町田・南成瀬小  
○小金井・小金井第一小

♪ 2月16日に入選作品授賞式及び演奏発表会をカスケードホールにて行いました。今年度の授賞作品は入賞作品集としてまとめています。(1冊600円)ぜひ今後の作品づくりにお役立てください。購入希望の方は下記まで、どうぞ御連絡ください。

◇問い合わせ先：事業部長 藤井 小百合  
(足立・花保小)

# ♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈12月理事会〉 12/12 於：中幡小学校

議長：大森 絵理 (葛飾・飯塚小)

○会長あいさつ

○議事

- 1・2月の行事予定について
- 平成29年度 総武ゾーン大会について
- 平成30年度 都小音研研究大会について
- 第53回児童作曲コンクールについて
- 全日音研、都小音研合同新年会について
- 各部より \*庶務 \*会計 \*研究  
\*事業 \*調査 \*広報

〈2月理事会〉 2/16 於：千代田区カスケードホール

議長：宮田 俊明 (渋谷・中幡小)

○会長あいさつ

○議事

- 3月の行事予定について
- 平成29年度 都小音研 総武ゾーン大会について
- 平成30年度 総会・研究会について
- 平成30年度 都小音研 研究大会について
- 平成31年度(2019年度) 全日音研全国大会東京大会について
- 平成30年度 事業計画について
- 今年度の反省について
- 各部より \*庶務 \*会計 \*研究  
\*事業 \*調査 \*広報

## 平成30年度 都小音研事業計画のお知らせ

- (1) 4月26日(木) 都小音研総会・研究会  
豊島区立池袋本町小学校
- (2) 7月6日(金) 学ぶ理事会
- (3) 7月24日(火) 研究大会第1回拡大実行委員会
- (4) 12月13日(木) 研究大会第2回拡大実行委員会
- (5) 2月15日(金) 作曲コンクール

## 編集後記

都小音研総武ゾーン大会が、盛況のうちに終わりました。授業も演奏もよく研究されていて、特に研究演奏では、授業での活動がまとめられていて、日々の様子が見えてくるような演奏でした。皆様、お疲れ様でした。(U)

## 会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 早川 修一

編集：広報部

印刷：コウシン 03-3324-9288

## 総武ゾーン大会報告

都小音研研究部長 石井 ゆきこ

平成30年1月26日、タワーホール船堀で総武ゾーン大会が開催されました。前回の総武ゾーン大会は平成10年2月、この会場の開館直前に行われました。20年前の大会を江東区で経験した私は当時を思い出し、感慨深いものがありました。現在の総武ゾーンは平均年齢が若くなり、20～30代の先生方が授業者、演奏者、各チーフとなって研究推進、大会運営で活躍しました。

総武ゾーンは今、求められている主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、大会主題『つなげる 見つける 私たちの音楽』を設定しました。児童の実態をふまえ、〔共通事項〕を明確にした教材分析や題材構成、児童が〔共通事項〕を手掛かりとして思いや意図を表現に生かす学習活動を中心に研究を進めました。歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の4本の研究授業では、児童の主体的な姿を引き出す教師の関わりについて検討を重ねました。また、4本の研究演奏は児童が思いや意図を表現に生かす授業の積み重ねが見えるステージを目指しました。

津田正之先生より講評で「現行学習指導要領の趣旨を生かした学習指導の成果の総決算といえる内容であり、子供主体の授業観が見事に取り入れられていた。」と価値付けていただき、先生方の研究の過程での御苦労が報われたように思いました。

全員合唱「花」を声高らかに歌う先生方の笑顔に、大会を終えた安堵感や達成感が表れていたと思います。

総武ゾーン大会に携わった皆様の真摯な取組に心より敬意を表します。本大会の成果を次の都小音研大会、全日音研総合大会、そして多摩南ゾーン大会へとつないでいきます。

## 総武ゾーン大会を終えて

総武ゾーン大会推進委員長 立岩 恵子

1月26日の3～4日前は、都心でも20cm以上の積雪となる大雪で、これが大会当日でなくてよかったと安堵しました。受付や会場準備も整い、研究授業校が次々に笑顔で会場入りする様子を見て、「とうとうこの日が来た」と、身が引き締まる思いでした。

平成27年の夏休み前に初めて、墨田区・江東区・江戸川区の3区代表者が集まった時には、近隣の区とはいえ互いに初対面の方ばかりで、ゾーン大会の経験者も少なく、不安でいっぱいスタートでした。そこで各区の研究についての情報交換から始め、3区音楽専科教員の意識調査の実施と集計、目指す児童像の設定、開催日や会場の決定、授業と演奏の分担と、少しずつ準備を進めていきました。毎月行われてきた実行委員会は大会前までに17回を数えましたが、重要な大会主題と研究の視点については、各区に案を持ち帰って意見を集約し、代表者が臨時で集まって検討したりメールのやり取りを重ねたりと、何ヶ月もかけて練り上げました。

3区が『つなげる 見つける 私たちの音楽』という同じ目標をもって自分たちの授業を見つめ直し、総武ゾーンの子供たちが主体的に音楽に関わる姿を求めてきた日々の学びは、今後の私たちにとって大きな財産となることでしょう。

本大会の開催にあたりまして東京都ならびに関係各々の教育委員会、またこれまで私たちに寄り添い、貴重な御指導と御助言を賜りました助言者の先生方と、児童の出演に多大の御配慮をいただきました各学校の校長先生など多くの皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。

そして、本大会の運営や研究の推進に精力的に携わり、大会の実現と成功のために長期にわたって御協力くださいました関係者の皆様方には、改めて敬意を表し、次の大会につなぎたいと思います。

### 講評・講演

## 「学習指導要領 移行期において大切なこと」

研究発表と研究演奏終了後、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 津田正之先生より「学習指導要領 移行期において大切なこと」についての御講演がありました。

◇平成30・31年度の移行期の評価の取り扱いについて……  
⇒評価の観点、現行通りの四観点で進める。

【学力の三要素と評価の観点との関係】

- ①基礎的な知識及び技能（音楽表現の技能、音楽表現の創意工夫、鑑賞の能力）
- ②思考力、判断力、表現力等（音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能、鑑賞の能力）
- ③主体的に学習に取り組む態度（音楽への関心・意欲・態度）

◇キーワード……  
・育成を目指す資質・能力の明確化（三つの柱で目標・内容を整理）

・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善  
・知識及び技能は活用できるものとして習得させる。

◇新旧学習指導要領における教科の目標の比較……  
（旧）表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力の培い、豊かな情操を養う。

↓  
（新）表現及び鑑賞の活動を通して、**音楽的な見方・考え**方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）知識及び技術の習得
- （2）思考力、判断力、表現力等の育成
- （3）学びに向かう力、人間性等の涵養

音楽的な見方・考え方 ⇒

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

（音響 イメージや感情 生活や文化の関わり）

◇目標のポイント……  
・図工と音楽だけは、「見方・考え方」が後、「活動を通して」が先の表記。活動を通して学ぶことを前提としている。

・「音楽活動の楽しさを体験することを通して」は、小中共通の文言

◇学習指導要領実施状況調査から……  
・「音楽の学習をすれば、普段の生活や社会に役立つ」という質問に対し、音楽科は唯一50%を切る。

◇新学習指導要領の趣旨を生かす学習指導の充実に向けて  
・「音楽的な見方・考え方」を働かせる指導計画になっているか。

・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力」の育成が図られる指導計画になっているか。

・「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られる指導計画になっているか。

最後は、津田先生から「不易流行」という言葉をいただき、講演会は終了しました。「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れる」という意味です。



## 第54回 合唱祭

平成30年2月11日(日)・12日(月)・18日(日)

府中の森芸術劇場

今年度は、65校の子供たちが1年間の日頃の成果を発表しました。のびのびと歌声を響かせる姿や、他校の演奏を食い入るように見つめる姿など、他校との交流が大きな刺激となった会となりました。

講師の辻秀幸先生からは、1校ずつの講評をいただきました。「身体を伸ばしつつ息の流れを止めない。」「今の子供たちは外で遠くに向かって大きな声を出す機会が少ないので、発声時にロングトーンをやってみましょう。」「お互いを信じて“声を聴き合う”から“声を聴かせ合う”姿勢を演奏に導入してください。」など各校の課題や演奏へのアドバイスを教えていただきました。

合唱祭終了後の研究反省会では、ワークショップがありました。「①胸より前に顔がでない姿勢 ②息の流れをつくる ③声帯と息 ④身体を使って声を出す ⑤歌う表情について ⑥早口言葉と言葉の準備 ⑦旋律の歌い方 ⑧ハーモニーづくり ⑨ピアニストの役割」他、たくさんの内容を御指導いただきました。また、会員による合唱の実習では、辻先生から具体的な指導の言葉をけをいただき、多くのことを学びました。

運営に当たった会員やOBの方々など3日間で150名近くの会員が参加しました。辻先生からは、「皆さんは、日本の未来を育てていらっしゃいます。どうぞ頑張ってください。」と温かい励ましをいただき、素晴らしい充実した研究会となりました。



合唱研究会研究部長 後藤 朋子 (日野・七生緑小)

## 第42回東京都小学校管楽器演奏会

平成30年2月17日(土) 武蔵野市民文化会館

2月18日(日) 武蔵野市民文化会館

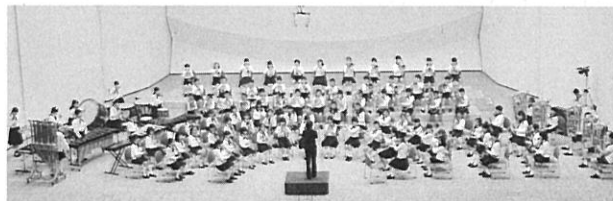
2月24日(土) なかのZERO

2月25日(日) なかのZERO

第42回東京都小学校管楽器演奏会が上記の日程で4日間にわたって開催され、67校が参加しました。学校の実情から課内活動、課外活動、学年合奏、または小編成から大編成まで、とバンドの在り方は様々ですが、どの学校も1年間の活動の集大成という位置付けで参加しています。それらの実態にあわせて選曲も工夫されて、児童は、演奏したり聴いたりすることで、互いに学び合える貴重な場となっています。また、指導者にとっても、管楽器研究会で研究・研修してきた学びの延長線上にある演奏会です。

当日、子供たちは、舞台の上で目を輝かせながら自信に満ち溢れた姿で演奏し、練習で積み重ねてきた力を思う存分発揮することができました。1年間の活動を締めくくる演奏会として大変充実したものになりました。

3月の例会は、全演奏を講評していただいたスクールバンドサポーター 田川伸一郎先生を講師にお招きして演奏会を振り返り、様々な観点から御指導いただきます。今後の活動や次の演奏へどう生かすか、私たちにとって大切な学びの機会としていきたいと考えます。



管楽器研究会副理事長 大谷 美奈子 (文京・明化小)

## 第61回 東京都小学校音楽教育研究会 研究大会



1. 主催 東京都小学校音楽教育研究会
2. 日時 2019年1月25日(金)
3. 場所 新宿区立新宿文化センター
4. 研究主題

「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」

5. 内容

「音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習の実現」「学びを深める対話的な学習の充実」「学びの深まりの充実を図る指導と評価」について研究を進めます。

- ・研究授業及び研究協議(7授業)
- ・研究発表 ・講評・講演 など

都小音研では、児童が音楽とのつながりを深め、音楽で友達とつながり、音楽を生活に生かそうと主体的に学び、学びの深まりと音楽活動をする喜びを実感してほしいとの願いをこめ、新研究主題を

「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」

と設定しました。これまでの研究の成果を踏まえつつ、より充実した授業実践を目指し、都小音研会員による各種研究会を中心とした研究発表を行います。

皆様と今の音楽科教育をともに考える機会にしたいと思います。奮って御参加くださいますよう、お願いいたします。